

教育プログラム・コースの概要

大学名等	秋田大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多職種連携によるチーム秋田を構成するがん医療人を養成するコース (正規課程) (テーマ①)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、病理専門医、緩和ケア医、腫瘍循環器内科医、腫瘍腎臓病医、腫瘍整形外科医、臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医、その他、各種臓器別腫瘍専門医。						
修了要件・履修方法	必修を含む15単位以上を履修し、学位論文を作成する。 査読のある科学雑誌に掲載され、学内の最終試験に合格する(15単位)。 以上を要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 基礎科目 : 生命科学研究概論(2単位)、臨床医学研究概論(2)、最新医科学研究(2)、医用統計疫学基礎・演習(2) 専門科目 : 臨床腫瘍学特論Ⅰ(2)、臨床腫瘍学特論Ⅱ(2)から2単位以上 <選択科目> 基礎科目 : 医科学研究セミナー及び基礎医学技術実習から2単位以上 専門科目 : 患者の個人的な特性に基づくがん治療学(2)、精密診断に基づくがん治療学(2)から専門科目の必修科目と合わせて5単位以上選択履修する。						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、放射線治療専門医(日本放射線腫瘍学会)、病理専門医(日本病理学会)、臨床遺伝専門医(日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会)、がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	「多職種連携によるチーム秋田を構成するがん医療人を養成するコース」では秋田県全域をチームとしてカバーできるような体制づくりができるように個別学習に加えて、講演会や勉強会を通じて、横のつながり、顔のみえる関係性を構築できるようにしている点に新規性・独創性がある。						
指導体制	秋田県は高齢化率ワースト、がん死亡率ワースト、加えて人口減少率もワーストであるという日本の近未来の縮図のような地域の特徴を有する。このような地域の知の拠点として秋田大学にはがん薬物療法専門医、放射線治療専門医、病理専門医、臨床遺伝専門医、がん治療認定医といった次世代がんプロを養成するための指導医がそろっている。このワンセットのチームをコアとして、2セット、3セットのがん診療チームを複製してゆくという「屋根瓦」方式の指導体制は確保されている。						
修了者の進路・キャリアパス	秋田大学は秋田県がん診療連携協議会を通じて秋田県と密接な関係性を維持している。修了者を県内のがん拠点病院にどのように適正配置するかについては常に相談できる状況にある。また、養成初期段階においては十分なマンパワーを発揮できない可能性があるが、拠点病院のグループ化とビジット型での診療支援体制を構築し、修了者が秋田県内のがん拠点病院で、無理なく、十分な活動をできる体制を作ってゆく。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
履修者数	0	2	4				

受入目標人数設定
の考え方・根拠

都道府県内の秋田県がん診療拠点病院1，地域がん診療連携拠点病院3，地域がん診療病院6，がん診療連携推進病院2の合計12のがん診療病院がある。四国4県に匹敵する広い県土を有するため、きめ細かい診療を提供するためには必要な配置である。しかし、この全病院に修了生を配置するのは当初目標としては困難である。そこで8つの二次医療圏の中で、コアとなる3病院にがん薬物療法専門医と放射線治療専門医を最低1人ずつ、配置することを目標にする。秋田県内のがん薬物療法専門医数が6人のため今後6年間で3人養成すると9名となり、3病院で3人体制での診療が可能となる。放射線治療専門医は10人である。照射装置の関係からコアとなる3病院での充実をはかるには最低でも3名の養成が必要である。これによって3人体制を構築できる。この2診療科に加えて、がん治療が総合的に行えるがん治療認定医が必要となる。彼らは一般がん診療において、これらの2診療科と支援や連携を行う。3+3+4の合計10名が養成されれば、地域がん診療病院以上のレベルの病院に1名を派遣できる。現員と合わせて26名となる。最終的に再配置を検討すれば各病院には2名以上は派遣できる。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数をコース全体で10人と設定した。